

2022 年度第 1 回血液検査機器技術委員会 議事録

1. 日時:2022 年 4 月 16 日(土) 15 時 10 分～16 時 10 分
2. 場所:ZoomによるWeb会議
(ホテル グランデはがくれ 2F 背振)
3. 出席予定者(敬称略)
(会場外 Zoom)
新保、久保田、稲葉、高橋、金子、増田、朝比奈、常名、菅原、内藤、大川、井上、
今田、下村、林、坂井(代理:加藤)、春日、近藤、長濱、齋藤、鈴木、遠見、生田
(代理:中山)、久保、舟久保、大泉、田中
4. 欠席者(敬称略)なし

5. 議題

1) 報告事項

(1) 委員の交代:

中山 洋一委員→生田 勇太郎委員(アボットジャパン)の変更を申請している。

(2) 2021 年度第 2 回血液検査機器技術委員会議事録確認を行った。

(3) 第 11 回(昨年度)のセミナーの資料を HP にアップした。

2) 審議事項

(1) 第 12 回血液検査機器技術セミナーについて

① テーマ:「クロスミキシングテストの参考書」

② 担 当:下村委員、菅原委員

③ 10 月 7 日(金)13:00～16:00

④ 神戸国際会議場(692 席)

⑤ 定員未定(事前登録不要)

下記の5演題(各 17 分+質疑応答 3 分)、総合討論 30 分として予定時間:2 時間 20 分(休憩時間 10 分を含む)という提案があつたが、3 時間の枠でも可能なので、16:00 までの講演とする。アンケートを google フォームで作成し、会員に広く回答してもらおう。アンケートの内容は、クロスミキシングテストが標準化されていないことから、各施設のクロスミキシングの現状を拾い上げる予定。結果の解釈で困った症例についてセミナーにて提示し検討セッションを盛り込む。委員を中心として症例提出施設を捜し、趣意書を提出し施設の承諾を得る。提出施設がなければ、演者から症例を提出する。症例はできれば裏付けがとれているものが好ましい。講演5では、参加者に事前にパターンを見て考

えてきてもらうことを企画している。学術集会の HP にその内容が学会の技術委員会の HP に掲載していることを告知する。8 月くらいを目途に HP にアップする。演者の会員登録を確認する。

1. クロスマキシングテスト実施前に押さえておくべきポイント

演者: 結城智嗣(山形大学医学部附属病院 検査部)
基礎的知識(原理)、検体取り扱いのコンセンサス、
クロスマキシングテストを実施すべき検体の選別

2. クロスマキシングテスト実施にあたり押さえておくべきポイント

演者: 梶谷亮太(大阪医科薬科大学病院 中央検査部)
正常血漿(倫理面も併せて)、試薬、混合ポイントの選択と解釈
2 時間インキュベーションの方法

3. クロスマキシングテストの結果解釈で押さえておくべきポイント

演者: 徳永尚樹(社会医療法人 川島病院 検査室)
結果の注意点、波形パターンと数値的指標の関係
LA cofactor effect

4. クロスマキシングテストの実例を交えたコメントの書き方

演者: 松田将門(福島県立医科大学保健科学部臨床検査学科)
実例によるクロスマキシングテストと確認検査の関係性
結果の実用的なコメント例、臨床からの問い合わせの答え方
どういふポイントを見て判断するのかを見る

5. 実症例を用いたクロスマキシングテストの解説

演者 下村大樹(公益財団法人 天理よろづ相談所病院 臨床検査部)
あらかじめ提示したクロスマキシングテストパターンの解説
(PT クロスマキシングテストの活用法)

総合討論 30 分

(2) モーニングセミナーについて

- ① テーマ:「血球計数と血液凝固検査の再検について」
- ② 司会: 新保委員長
- ③ 演者 1: 屋代いづみ(獨協医科大学病院): 血球計数の再検等の内容

- ④ 演者 2:内藤委員:血液凝固検査の再検アンケート調査報告
- ⑤ 10月9日(日) 8:00~9:00を予定している。
- ⑥ 神戸国際会議場
- ⑦ 定員未定

内藤委員に凝固の再検基準のアンケートを早急に実施していただく。

(3) 第13回血液検査機器技術セミナーについて

- ① テーマ:「血球計数装置の実運用」
- ② 担 当:朝比奈、大川委員
- ③ 内 容:各メーカーの装置を使用している技師に発表してもらおう
シスメックス:今田委員
シーメンス:朝比奈先生の施設の方で検討している。
ベックマンコールター:日大、杏林、聖マリあたりか
アボット、堀場、A&T:メーカーの方と打ち合わせの上、遅くとも2023年春季セミナー時の本委員会にて決定する。
進捗状況を10月の学会の委員会で確認する。
2020、2021、2023のセミナーで血球計数については一通りまとまると思われるので、補冊の発刊を考えている。
2022、2024の内容で凝固の内容について補冊の発刊を考えたい。
第15回あたりでフローサイトをテーマにできたらと考えている。

(4) 第14回血液検査機器技術セミナーについて

- ① テーマ:「凝固測定装置の特徴と実運用」
- ② 担 当:金子委員
- ③ 内 容:凝固分析装置の特徴
同じ検体を違う装置で測定してみる
試薬と装置の組み合わせ
などを検討していく。

(5) 第15回血液検査機器技術セミナーについて

- ① テーマ:「フローサイトメトリーの実際について」
- ② 担 当:稲葉、常名委員
- ③ 内 容:BD、コールター、SONYなど
について検討していく。

3) その他

FCM のメーカーとして BD の委員参加を確認する。慶応や国立がんセンターでも BD の FCM を使用しているのので、委員として参加を検討する。
来年度に向けて副委員長候補を検討する。

以上